校長室だより～燦燦～ №４６９

昇降口

2021.12.8

毎朝、７時２０分頃になると、校長室を出て玄関に向かう。学校の入り口に立って、登校してくる生徒に挨拶をするためである。昇降口前には、教頭先生が立っており、手指消毒にくる生徒一人一人に声をかける。

生徒指導主事のＳ先生はというと、ほうきを手に昇降口の掃き掃除をしている。そのほうきさばきがすばらしい。年季が入っている。この道〇十年という雰囲気を醸し出している。教頭先生も同様に、ほうきで掃除をしていることがある。

そういえば、初任者のＳＳ先生が、４月に教頭先生の手ほどきを受けながら、ほうきを手に昇降口の掃除をしているときがあった。彼がほうきを持つ姿は、たどたどしい感じだった。きっと、高校、大学とほうきなど持ったことがなかったのだろう。家の掃除も掃除機である。小学校と中学校の掃除で使うほうきとは、また違うものである。慣れないのも仕方がないことである。

教頭先生は、ほうきの使い方を説明しながら、ＳＳ先生に手ほどきをしていた。その様子は、何やら楽しそうだった。次の日から、ＳＳ先生は、自分でほうきをもち、昇降口の掃除を始めた。すぐ近くでは、生徒指導主事のＳ先生が、掃除をしている。まるで、師匠と弟子である。その差は歴然である。Ｓ師匠は、弟子に何も教えない。何も言わない。それがまたいい。

Ｓ師匠は、昇降口だけでなく、学校の玄関前など、敷地内の掃除もしている。見ていると、いつでも丁寧かつ素早い。やっていることに、日によっての差がないのである。経験のなせる技ではあるが、それだけではない。師匠には、心があるように感じる。

気がつけば、師走、１２月を迎えていた。ＳＳ先生のほうきさばきもだいぶ板に付いてきた。日々の修行の成果である。昇降口でＯＪＴなどあるわけがないと思われるかもしれない。だが、野田中学校の場合は、もしかしたら教員として大事なことを、ＳＳ先生は、Ｓ師匠や教頭先生から学んでいるのかもしれない。

Ｓ師匠が、毎朝、どんな気持ちで昇降口を掃いているのか。それは、まるで場を清めているようにも見える。ＳＳ先生は、きっと何かを感じ取っているはずである。教員１年目の修行の場として昇降口はいいかもしれない。

これからは、Ｓ先生のようなほうきさばきのできる教員も減っていくのかもしれない。ＳＳ先生には、次の学校に行き、何かの機会に、ほうきを手にすることがあったら、まわりの先輩教員から、「若いのにほうきさばきがいいね」とほめられるぐらいになってほしい。「前の学校でＳ師匠と教頭先生に習いました」必ずそう言ってほしい。